

希望ある新しい政治へ

菅自公政権を倒して、どういふ日本をつくるのか――。日本共産党は総選挙に向けて「5つの提案」を訴えています。

日本共産党

「5つの提案」

- 1 新自由主義から転換し、格差ただし、暮らし・家計応援第一の政治をつくる
- 2 憲法を守り、立憲主義・民主主義・平和主義を回復する
- 3 覇権主義への従属・屈従外交から抜け出し、自主・自立の平和外交に転換する
- 4 地球規模の環境破壊を止め、自然と共生する経済社会をつくる
- 5 ジェンダー平等社会の実現、多様性を大切にし、個人の尊厳を尊重する政治を

声を上げれば政治は動く

コロナ対策 直接支援の道こじ開ける

「自粛と補償は一体に」の声を上げ、持続化給付金、雇用調整助成金のコロナ特例、家賃支援給付金など政府がかたくなに拒否してきた直接支援の道を切り開きました。

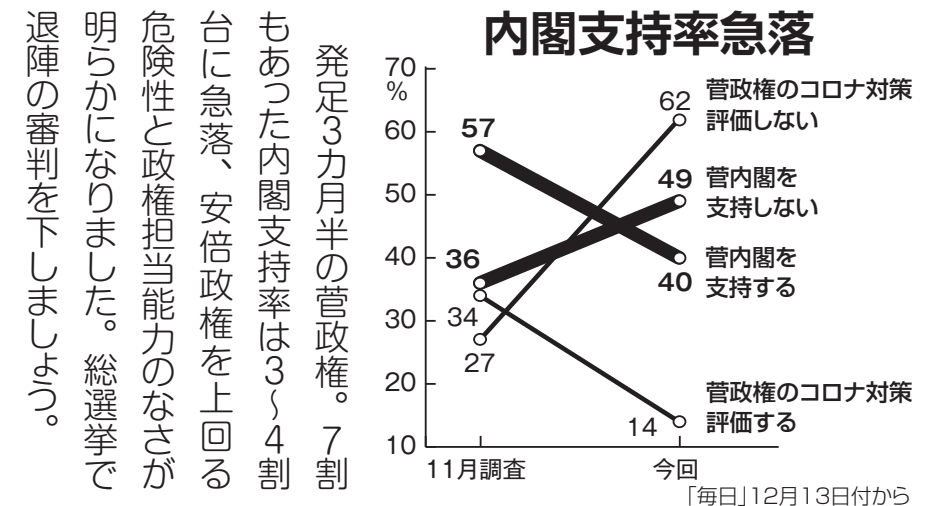
少人数学級 みんなの力で35人学級

1クラス40人（小1のみ35人）と定められている小学校の学級編成基準を、2025年度までに全学年35人以下に引き下げること。教育界、父母などみんなの成果です。

オール野党で連合政権を

市民と野党の共闘は昨年大きく前進しました。いま野党に求められているのは、国民が希望を持てる共通政策を練り上げるとともに、共産党を含む「オール野党」が政権をとるとする決断をすることです。

菅政権 終わりが見えた



強権、冷酷、能力なし

■学術会議介入

異論排除は安倍・菅政権の特徴ですが、その矛先が科学者に。学術会議への人事介入問題。理由を示さないままの任命拒否は学問の自由の侵害だけでなく、社会全体を委縮させます。全国民の大問題です。

■自己責任おしつけ

「まずは自分でやってみろ」―自己責任を押し付ける菅首相。コロナ危機の下で75歳以上の医療費を2割に引き上げることを決め、「中小企業を半分以下に」という人物をブレーンにすえる冷酷な政治です。

■ペーパー棒読み

国民に対して説明する意思も能力もなく、自分の言葉で国民に語るができない。差し出されたペーパーを棒読みするだけの国会答弁は首相としての能力と資格に欠けます。学術会議にはデマ攻撃まで。